



第106号
北海道教育大学
青陵会

(北海道教育大学岩見沢校同窓会)

会長 早瀬 公平

印刷 北海道社会福祉事業団福祉村
(TEL 0126-45-2300)



(題字は岩教大、藤根信章元教授の揮毫によるものです)

- 巻頭言…… 1
- 総会報告…… 2
- 令和2年役員…… 3
- 研修部より…… 4
- 先輩を訪ねて…… 5
- 学生生活支援事業…… 5
- 恩師と学生のこの頃…… 6
- 新青陵会員の抱負…… 7
- 支部便り…… 8

先行き不透明な時代「初の紙上総会」を実施

北海道教育大学青陵会 会長 早瀬 公平



今年度の総会は紙上総会となりました。恐らく、創立以来、初の出来事ではないでしょうか。

私たちは、新しい同窓会の姿を指して年度末・始めの事業プランの実施に革新的に取り組んできましたが、世界を揺るがす新型コロナウイルスにより全てが中止となる中、せめて総会だけはという思いで紙上提案という形になりました。

まずは、新型コロナウイルス禍により、お亡くなりなった方々へ哀悼の意を捧げますとともに、ご遺族や今なお闘病中の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

お陰様で、提案は全支部において承認をいただき、全国の仲間の皆様とともに新しい青陵会を構築していくこととなりました。

また、「同窓会今後のあり方検討委員会」の皆様には、二年間の熟議を経て最終答申をいただきましたことに感謝を申し上げます。

これから私たちは答申いただきました新たな方向性を具体化していかなくてはなりません。産みの苦しみに感じるか、新たな同窓会活動を創造する喜びととらえるか、皆さんとともに積極果敢に取り組んでいきたいと思えます。

事務局としては、これまでの庶務部を総務部と改称いたします。組織改革に関する事務や百周年事業等に対応するため、理事長、副理事長との連携を一層強化して事業推進に努めます。

また、会員名簿を卒業期別に改めるため、今年度の名簿の発行は控えます。しかし、従来通りデータの蓄積は継続しますので、各支部からのご協力をよろしくお願い致します。

今年度予定していましたが総会と研修会の同日開催は、今後の活動の在り方として目玉となるものでした。

しかし、コロナ禍のため中止となったことは誠に残念でなりません。来年度以降も新たな発想で会員の皆様に喜ばれる活動を企画していきたいと考えています。

今回のコロナ禍により大きな苦しみと同時に多くの教訓が得られました。その一つがWEBの活用です。大学では、全講義をリモート授業に切り替えて実施しています。私たちもテレビ会議とまでは難しいかもしれませんが、メールやホームページの活用など、広報や事務連絡等、また、各支部におかれましても可能な範囲で活用していきたいと思えます。

一方、今日の学生の自主的活動がこれまで以上に活発になっていきます。音楽、美術に関するイベントが、多

くの市民と協働して展開されるようになりまし。

特筆すべきは、過去に岩見沢市で行われていたお祭りを復活させようと、学生を中心とする実行委員会を取組んでいます。残念ながら、これもコロナ禍を避けるために来年に延期となりましたが、多くの市民・企業・学校と協力している姿は、新しい時代の到来を感じさせてくれます。

スポーツの学生も各種の大会で好成績を収めるなど、これら学生の活躍は大学の存在と価値をより一層高め、注目を浴びています。

この様子はホームページやフェイスブックでお伝えしていますのでご覧になり、皆様の応援をお願いしたいと思えます。

ホームページは、全支部のページを開設していますので、各々で独自の活用が可能となっています。どうぞ有効にお使いください。

長い期間ステイホームであります。同窓会改革の手を休めるわけにはいきません。

今年度は、「同窓会今後の在り方検討委員会」を発展させて、仮称「改革委員会」を発展させ、答申案の具現化に着手いたします。

その都度、広報誌やホームページにてお知らせいたしますが、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「新しい生活様式」の正しい実践に努め、皆様方の健康とご多幸、そして各支部の益々のご発展・充実を心からお祈り申し上げます。

令和二年度 北海道教育大学青陵会総会報告

「持続可能な同窓会を目指して」

北海道教育大学青陵会理事長 小 関 文 雄

一 はじめに

昨年度から理事長となり、今年度で二年目を迎えます小関文雄と申します。今年度で退職となりますが、一年間よろしく願っています。

さて、令和二年度の総会を五月十六日(土)に岩見沢市のホテル平安閣で予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から各支部が集まったの総会を中止することとし、各支部への郵送による議案の提案と各支部からの郵送による議決により承認されました。

この間、一般の会員の皆様にはご意見を伺う機会がなく大変申し訳なく思っておりますが、このような事情ですので、ご理解と変わらぬご支援をお願いいたします。

二 平成三十一年度の反省

① 事務局の取組

ア 研究大会で「同窓会今後の在り方検討委員会」の中間報告を踏まえたパネルディスカッションの実施

イ ホームページの充実を図るため、各支部へ担当者を依頼

ウ 大学ギャラリー設置に向けたクラウドファンディングへの協力(五十万円寄附)

エ 学生活動のホームページでの発信と演奏会等への参加要請

② 庶務部の取組

ア 退職した会員を賛助会員から会員と改め、会費(賛助金)の納入依頼

イ 年賀状は経費節減のため、青陵会会員にはホームページに掲載するなど整理

ウ 大学卒業式・入学式に対する取組はコロナの影響で中止

③ 研修部の取組

ア 研究大会は「同窓会の今後の在り方」についてパネルディスカッションを実施

イ 研修誌「望岳Finaler」の発行

④ 会員・組織部の取組

ア 会員名簿の作成と次年度の名簿の見直し

イ 組織実態調査の見直し

⑤ 広報・情報発信部の取組

ア 会報「道青陵」一〇四号、一〇五号の発行

イ 会報で教員以外の会員の活躍や大学生の活動を紹介

⑥ 大学連携部の取組

ア 学生活動支援事業の実施

イ 学生幹事会の実施と研究大会懇親会への参加依頼。

以上が平成三十一年度の主な取組でした。次に令和二年度の活動計画についてです。

① 事務局

ア 同窓会創立百周年に向けた準備(準備委員会、期別名簿の作成など)

イ 同窓会今後の在り方検討委員会答申の具体化

ウ ホームページでの積極的な情報発信

② 総務部

ア 退職された会員の意識の変容に向けた啓発

イ 大学卒業式・入学式に対する取組の強化

③ 研修部

ア 総会と研究大会の同時開催(コロナにより中止)

イ 研修誌「望岳Finaler」の頒布

④ 会員・組織部

ア 会員名簿のデータによる集約(冊子は作成せず)

イ 百周年に向けた期別名簿の作成準備

ウ 組織実態調査の見直し

⑤ 広報・情報発信部

ア 会報「道青陵」一〇六号、一〇七号の発行予定

イ ホームページの充実

⑥ 大学連携部

ア 学生活動支援事業の継続

イ 学生幹事会の実施と新規卒業生の同窓会加入促進

⑦ 会計

ア 経費節減の推進

以上が令和二年度の活動計画ですが、新型コロナウイルスが全世界で流行しており、その推移を見極め、感染拡大防止に努めながら、可能な範囲で取組を進めてまいりたいと考えておりますので、全会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

また、総会議案とは別に会則の若干の変更を行いました。大きな変更ではありませんが、現行の制度や趣旨に合うよう変更しております。加えて、名簿等の作成に必要な「個人情

新たな形の「会員研修」と「教員研修」

北海道教育大学青陵会 研修部長 井村 信

例年、夏季に実施しておりました「北海道教育大学青陵会研究大会」ですが、本年度は夏季にオリンピックが予定されていたことから、総会に引き続いて開催することとしておりました。また、名称も「Sセミナー」（仮称）と改め、全ての会員の資質向上に資する「SDGsに関する講演会」の準備を進めてきたところです。しかし、コロナ禍による総会の中止に伴い「Sセミナー」も中止させていただきました。初の試みでもありいただきましたが、皆様には、やむを得ない措置であったことをご理解いただきますようお願いいたします。

次年度以降の研究大会については、今後、本会は教員の会員数が減少し、一方で民間・公務員の会員数が増加することから、「従来の研究大会の在り方」を見直し、時代に即した形に改善していく必要があると考えております。このことから、「持

続可能な同窓会」の視点に立ち、年一回の総会時に、会員の職種に拘らず全会員の資質向上に資する「研修」を実施し、会是の達成に寄与したいと考えております。ついては、次年度も「Sセミナー」（仮称）として総会時（五月第三土曜日）に開催し、多くの会員にとって親睦と資質の向上を図る場となるよう工夫してまいりたいと思っております。皆様から忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。各支部の研修担当の方々には、年度当初のお忙しい時期のご案内となりますが、次年度も本年度と同様に、総会・講演会・教育懇談会をセットでご案内させていただきます。

また、「従来の「教員研修」については、別な方法で改善・充実を図っていかねばならないと考えております。

各支部で行われてまいりました学習会・研究大会等の研修活動については、これまでと同様、要請に基づく講師派遣や全面改訂された研修誌「望岳ファイナル」の頒布、資料提供などの支援を行ってまいりますので、ご遠慮なさらずご連絡をいただければと思います。また、「教員研修」に関しては、指導主事会との連携はもとより、その中心を空知や石狩・札幌支部に依頼するなど、道と支部とが新たな形で連携・協力する方法も考えられます。いずれにいたしましても、今後とも会員個々のニーズを踏まえ、それぞれのライフステージに応じた研修の充実に向け、「会員研修」及び「教員研修」の在り方について、早瀬会長をはじめ役員会のご指導をいただきながら検討してまいります。

加えて近年、教育行政の場で活躍する会員が減少しています。研修部においては、専門的教育職員（指導主事・社会教育主事）の育成を目指して、特別研修会を実施しております。特に各支部、各学校におかれま

しては、「指導主事として活躍が期待できる」「社会教育主事として力量を発揮してほしい」という同窓の方がいらっしゃいましたら、まずは研修部へご一報をお願いいたします。

結びになりますが、青陵会の会是である「会員相互の親睦と資質の向上をめざす」という言葉には、研修活動を通じた会員個々の育成や、活躍の場の拡大を図るという願いが込められております。

特に、管理職の方々、後輩を教え、次世代を担う人材を育む使命があります。また、若い世代の方々、これからの時代を担うという自覚と責任が徐々に増していく年代に向かつていくこととなりますので、私たち研修部はそのお手伝いをさせていただきます。来年はこの書面にて、Sセミナーの概要報告ができるよう、状況の好転を期待してやみません。今年もどうぞよろしく願います。

この春、現任校の帯広市立帯広小学校に赴任しました。今は北海道ばかりでなく、全国各地でクマの目撃情報がよく伝えられています。昨年十二月、校庭にクマが逃げ込んだ学校です。四時間後に駆除されましたが、窓ガラスが割られました。すでに窓ガラスは取り替えられています。すが、アルミの窓枠にはその時の爪痕が今もはっきりと残っています。日高山脈が近いとはいえ、帯広市の街の中心部の学校ですから（帯広駅から一番近い学校）、驚きの事件でした。休日良かったと学校関係者は皆胸をなで下ろしたものです。生まれ故郷で新採用となり、そして、ここで退職することになりそうです。

早くも機会を得ることができ、感謝しております。同窓のありがたさを感じます。

現在、北海道十勝新聞教育研究会の会長を務めています。昨年、帯広市で第六十二回全国新聞教育研究会を開催させていただきました。同窓の実行委員長と事務局長とともに、なんとか無事終了することができホッとしたところです。

来々、北海道NIE推進協議会が中心となって第二十六回NIE全国大会が札幌で行われます。微力ながらお手伝いをさせていただきます。札幌市在住のノンフィクション作家・梯久美子氏のご講演も予定されています。興味がございますいたら、ぜひご参加ください。

今夏は東京オリンピック札幌マラソンにあわせて研究室の同期で集まる予定でした。これまでも、何かに託けて同期で集まっていますが、新型コロナウイルスの影響で何もかもが変ってしまいました。ほとんどは札幌近郊にいますが、愛媛、島根、岡山と道外組もいるので、気軽にとはいきませんが、何とかこれからも交流を続けていきたいものです。

先輩を訪ねて
～同窓同期のつながり～
早川 一之氏
(保健体育研究室 昭和60年卒)



学生生活活動支援事業
大学連携部長 野田 泰史

大学連携部では、母校の発展や本学学生による芸術やスポーツ活動を通じた地域貢献活動を支援するため、平成二十二年度から学生生活活動支援事業を実施し、今年度で十年目を迎えます。また、昨年度から幅広い支援を行えるよう四つの専攻に加え一般申請枠を新設しました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生活動が制限されており、現時点では本事業も未実施となっておりますので、昨年度の本事業の様子をご紹介します。いただき、会員の皆様のご理解と学生生活活動支援基金へのご寄附をお願いいたします。

〈芸術・スポーツビジネス専攻〉
活動名「北教大岩見沢校YOSA KOI『迅』の地方演舞及び来年度の本祭」
昨年（令和元）のYOSA KOI ソーラン祭りに参加。その成果として市内含め、多くの方から演舞依頼をいただきました。来年も本祭に参加し、市民をはじめ多くの方に演舞を見ていただき、感動と元気を与えられるようがんばります。

〈スポーツ文化専攻〉
活動名「視覚障がい児に対するスポーツを通じた余暇支援事業」
週一回、視覚障がいのある児童に対し、ブラインドサッカーの指導を行いました。アセスメント・顔合わせと五回の指導を実施しました。本活動はサッカースキルの向上というよりも幅広い運動スキルの獲得を目的としています。

〈美術文化専攻〉
活動名「修了・卒業制作展」
地域の方々をはじめ、岩見沢校を目指す学生にご来場いただき、幅広い美術活動や学生の姿勢を見ていただくことで、美術の面白さや楽しさ、可能性を感じていただく貴重な機会となりました。

〈音楽文化専攻〉
活動名「定期演奏会」
音楽文化専攻の学生・教授陣が丸となって取り組み、企画運営は実行委員の学生が行いました。

専攻の学生から演奏曲目を集め、アンケートで選考した曲を演奏しました。学生のアイデアと創意工夫で活動をより充実させています。

以上の活動に約五十万円を支援しました。なお、原資は会員の皆様からいただいた基金への寄附で賄っております。



「成長を見る楽しみ」
スポーツ文化専攻
教授 越山 賢一

野村君が卒業したのは二年前になります。一・二年次はクラブ活動での接点が多かったのですが、何事にも積極的に好奇心が旺盛で、常に仲間達の中心にいたことを思い出します。何か問題が起こった時には「野村く、・・・」という具合でしょつちゆう怒られていた(期待されていた?)と思います。ゼミに配属されたからは、話す機会も増えました。当初から教員を志望していたこともあり、コーチングに関する内容に興味旺盛でサッカー部の練習、メンバーの練習姿勢、同期や後輩などの人間関係に積極的に関わるようになりました。私と話す時は提案型の話を持ち掛けてくる学生でしたが、当初は仲間との視点のズレや付き合い方、あるいは会話の仕方などの空回りに対し注意されることもあったと思います。しかし、学年が進むにつれ自己像やサッカー部の将来的展望が明確になると、大きな変化を迎え、何事にも献身的な言動を発揮するようになりました。教育実習では子ども好きで指導熱心という特質が如実に表れ、多くの時間をかけ資料映像を作

成し見事な研究授業をおこないました。

そしてサッカー部では存在の大きさが際立ってきました。練習に向かう姿勢は後輩たちの見本となり、それに比例するように彼の競技力も著しく向上しました。道内では彼のスピードと左足のキックは抜きん出ていました。忘れられないのは中心選手として出場したインデペンデンスリーグという全国大会。全国でも屈指の強さを誇る明治大学戦で大活躍をしました。そろそろ得点が欲しい時間帯、左足一閃、空気を引き裂く二十メートルのシュートで同点としました。長い間サッカーに関わっていてあんな見事なシュートは見たことが無いというシュートでした。チームは最高潮になり逆転かと、期待しましたが結果は残酷なものでした。終了間際、なんと彼の反則からPKを献上してしまい、九死に一生を得た明治大学がその後優勝しました。サッカーに掛ける思いがあの一蹴り、あの試合に凝縮されたのだと思っています。

今後、自分を信じ、自分の力を教育現場に発揮出来るよう努力を続けてください。

恩師と学生のこの頃



「学びと繋がりに」
南電町立南電中学校
教諭 野村 拓哉

右も左もわからず、同僚に助けをいただいていたばかりだった新卒一年目から時が経ち、二年目となりました。新しい仕事も任せられ、責任も大きくなりつつも、授業や生徒たちとの日々の交流、部活動に大きなやりがいを感じています。

そんな充実した日々を送れているのは、間違いなく大学での経験や学びのおかげだと思っています。特にサッカー部の活動において、学生リーグ四連覇、天皇杯、総理大臣杯、インカレと、優勝や全国大会に出場した経験やそこに辿り着くまでの努力の過程は、私にとって何にも代えられない大きな財産です。

監督であった越山先生とは、ゼミ活動でもお世話になり、試合分析の方法を学んだり、次の試合に向けてどんなメンバーが良いかなど、長い時間ゼミ生と先生とで議論を重ねたりしました。大会毎にモチベーションビデオを何日もかけて作成したことや、部の中でさらに役割分担して活動を重ねたことで、それが勝利や優勝の結果となった瞬間は、忘れられない達成感と充実感を得ることができました。

越山先生はサッカーに対して本当に熱い人で、学生たちにも負けない熱量で日々指導してくれました。その熱さと私の精神的な未熟さが故に衝突したことも度々ありましたが、先生は私に指導を続けてくれ、多くのことを教えてくれました。卒業して二年経った現在も連絡をとりあい、近況報告をしています。四年間共にした同期ともよく連絡をし、当時の話やお互いの仕事の話をしながら、良い刺激を受けています。このつながりを大切にし、またいつかゼミ生と先生で集まり、美味しいお酒を飲みながら当時の話で盛り上がる日がくることを願っています。

四年間の部活動を通して、試合に出るかどうか、勝ち負けはもちろんですが、学生たちで部の方向を進める主体性や組織力、協調性が養われたこと。モチベーションビデオやポスターを作成し、情報機器の活用ができるようになったこと。分析結果をミーティングで伝えるプレゼン能力が身についたことは、私が胸を張っていえる学びです。

多くの学びと繋がりを与えてくれた先生への感謝の気持ちを忘れず、これからの未来を担う子供たちのために精進していきます。

新青陵会員の抱負



社会人としての目標

岩見沢市教育委員会
桐生 夏海

三月に北海道教育大学岩見沢校スポーツ文化専攻を卒業し、四月から岩見沢市役所に就職しました。

私は現在、岩見沢市教育委員会学校教育課学校教育係に所属しており、市内小・中学校の管理運営に関わる事務を担当しています。業務内容としては、児童生徒の転校に関する事務や、教員の勤続三十年の表彰、出勤簿や卒業証書などの作成・配布、学校で購入した物品の支払の書類作成など多岐にわたります。はじめは基礎知識も備わっておらず慌てばかりでしたが、先輩方や上司にわからないことを丁寧に教えていただいたおかげで、なんとか落ち着いて対応できるようになってきたと思います。他愛もない話で和ませてくれてすぐに職場の雰囲気馴染むことができ、そういった周囲の気遣いがあるからこそ今の状況があるのだと実感しています。

特にこのコロナ禍においては、今までよりコミュニケーションを取りづらくなり煩わしい状況だからこそ、

些細な気遣いや優しさが大切なのではないかと思えます。私は、困ったときに自分から聞くより早く声をかけてくれる先輩や上司に助けていただいたことや、教頭先生から電話対応が素晴らしいねと褒めてもらったことで、もっと頑張ろうという気持ちになりました。まだまだ出来ることに限られて不安も多い自分にとっては、そういった言葉一つ、行動一つがとても原動力になっていきます。これは私だけに限ったことではなく、きっと誰でも優しくしてもらったら嬉しいのではないのでしょうか。今度は自分が誰かに同じことが出来るようになりたいと思うようになりました。

また、社会人として働き始めてから約五か月という短い期間、毎日何もかもが知らないことばかりで、学生とは違った意味で日々勉強だと痛感しています。小さなことでも、今後の自分の成長だけでなくまわりの助けになれるように身に付けていきたいと思えます。

青陵会の会員となった今、大学の先輩・同級生・後輩と、互いにいろんな話をできることが大きな心の支えとなっています。北海道教育大学岩見沢校で学んだことや思い出を糧に、社会人として成長し続けられるよう頑張りたいと思います。



きっかけ

深川市立一巳中学校
坪田 くるみ

私は今年の三月に北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科スポーツ文化専攻を卒業しました。そして、四月から北海道の中学校保健体育教員として採用され、深川市立一巳中学校に勤務しています。

私が教員を目指したのは、中学生の頃です。大好きなバレーボールがきっかけでした。地域の大学生が小中学生にバレーボール指導をしてくださる機会があり、私はその当時教えてくださった岩見沢教育大学バレー部の方々に憧れを抱きました。そして教員になるにはとにかく学力が必要だと思い、必死に勉強を頑張っていました。

実際に教員になり、改めて気づいたことがあります。それは「人との関わり」の大切さです。専門的な知識や一般教養はもちろん大切ですが、それらが活かされるのは生徒との信頼関係があつてこそだと実感しました。どのような授業にしようか考える時も、職員室で机に向かっているときより生徒と一緒にいるときの方がたくさん思いつきます。悩んでいる時こそ生徒との関わりを増やすこ



とで、助けてもらうことが何度もありました。思い返せば私がバレーボールを始めたのも友人の誘いがきっかけで、私が教員を目指したのも憧れとなる方々との出会いがきっかけでした。人生において、どのような場面にもきっかけをくれる方との出会いがありました。

この職業は人と出会う機会がたくさんあります。私はその機会をこの先もずっと大切にしていきたいです。そして、次は自分が誰かのきっかけを応援してあげられるような人になりたいです。

支部だより



「つながりを大切に」
後志支部 支部長
山本 康博
(泊村立泊小学校)

後志支部（私たちは後志青陵会と呼んでいます）は、小樽市を除く後志管内十三町六村を地域とし、今年度、名簿の上では七十名の会員（OB、現職）がいます。他支部も同様と思いますが、退会者が入会者を上回り、ここ五年間で二十三名減少し、高齢化も進んでいます。役員体制も縮小が必要となつていきます。しかし、決して悲観することなく、後志教育の有能な推進者として、後志管内における中心となる年齢、管内教育をリードする年代の会員層となつていくと考えています。

ここ数年、後志青陵会で大切にしているのは、会員同士の「つながり」です。「つながり」は青陵会の会員であることを意識することから始まります。そこに仲間意識が生まれまゝす。各学校内の会員同士のつながり、町村内の会員のつながり、教科研究によるつながり、さらに管理職同士をつなぐなどを大切にしています。挨拶し、連絡し、顔を合わせ集うこ

とで「手を携える」に発展します。まずは、様々な機会で会員同士の存在に気づいたら、「挨拶プラス一言」で「つながり」を広めたいと思います。組織の活動としても、従来のプロジェクトを改め、「地域交流」を重視した活動に転換しました。近くの仲間とつながり合い、年二回の全体が集まり交流する会では、より多くの仲間たちとの出会いを持てればと願っています。

令和二年度事業計画

一 重点目標

前年度の成果や反省を踏まえ、より活発な研修と会員相互の交流を深めるため、各部の活動の活性化を図る。

二 方針

(一) 会員相互の親睦及び研修と母校の発展を目指して活動する。

(二) 会員の幅広い参加が得られるように呼び掛けや連絡を密にし、地域交流会などの活動を工夫・改善し、組織の充実を図る。

(三) 協力的体制を強めるとともに、業務分担の明確化と事務処理の迅速化により、活動内容の充実にを図る。

三 具体的な業務の推進

(一) 事務局

- ① 諸会議の企画・運営、各部との連絡調整
- ② 道本部・他支部との連絡の強化、各町村理事・会員との連絡の強化
- ③ 関係機関・各同窓会との連絡・交流・渉外業務の推進
- (二) 研修部
 - ① 学習会の開催と運営
 - ② 新春研修会の開催と運営
 - ③ 道青陵会教育研究大会への参加と参加呼びかけ、大会報告
- (三) 組織部
 - ① 会員動向の把握と後志会員名簿の作成
 - ② 歓迎・激励会、新春懇親会（勇退者を讃える会）の企画運営
 - ③ 全道会員名簿の受入と販売
 - ④ 勇退者の活動存続意思の確認

- 活動を望む場合退職時に一万円を活動費として徴収し、その後の会費は徴収しない。
- 年二回の会合に案内する。
- (四) 広報部
 - ① 会報「後志青陵」の発行
 - ② 会員相互の情報交換
- (五) 青年部
 - ① 研修部との連携を図った青年部員を中心とした研修会やレク的な交流会の開催

瑞宝双光章受章

おめでとうございませす

渡辺直様

私たちの大先輩である渡辺直様が、令和二年六月の高齢者叙勲で瑞宝双光章を受章されました。おめでとうございませす。ますますのご健勝を祈念申し上げます。

編集後記

会報一〇六号をお届けいたします。新型コロナウイルス感染症の拡大により、発行が例年より一ヶ月ほど遅れてしまいいし、誠に申し訳ございません。このような情勢の中、玉稿をお寄せくださった皆様にご心よりお礼を申し上げます。また、本号の発行にあたり、ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

〈広報・情報発信担当〉

- ・部長 松縄義道 (北竜町真竜小学校)
- ・副部長 野村智久 (三笠小学校)
- ・部員 江幡佳代 (三笠小学校)
- ・部員 一ノ瀬健太郎 (赤平中学校)
- ・部員 小野寺英樹 (深川中学校)
- ・部員 沢泰宏 (岩見沢第一小学校)